

大学コンソーシアム構想と大学・地域・行政協働による農村再生の試み

—村民による白書づくりと「農村文明研究」の取り組み—

概要

木島平村に来訪している大学及び大学生の合同による農村版『大学コンソーシアム木島平校』を開講し、集落に滞在し交流を図り、集落再生の課題を探り、その課題を解決するために再訪を促し持続的な交流をねらいとしている。また、村民一人ひとりの特技や技を地域作りに活かす村民研究員制度を設置し、それらの特技などを「実習」として、年間5回開催する「農村学講座」に活かした。

事業の内容

事業の内容

【農村版「大学コンソーシアム木島平校」の開催】

夏休みに、4大学、15名の大学生が参加し、集落との交流を深めるために公民館で4泊5日の講義を行ったり、フィールド調査で集落の地域点検(良いところや悪いところを点検)を行い学生の視点から様々な視点で提案活動できるようにした。

また、高齢者からの聞き取りを行い村民のライフストーリーをまとめた。

【村民研究員制度】

村民一人ひとりの持つ特技や技を地域作りに活かす事を目指し約20人でスタートし、研究員の活動を集約化して「村民白書」を作ることを目標としている。また村民の暮らしと生業に自信と誇りを持つことを目標に「自らの足下を見つめよう」をテーマに5回の農村学講座とオープンカレッジを開催した。

総事業費

10.4百万円

ポイント

【大学コンソーシアム】集落内の公民館や民家に3泊し、参加者と村民との交流の形成。

【農村学講座】村民の特技と技をいかす「実習」で、寺の住職指導による精進料理や地元のお母さんによる野沢菜漬けなど「農村の持つ力」を体感。

事業の成果

- ・「大学コンソーシアム」に参加した学生や今までに木島平村に来訪した学生を対象に、冬の雪かき体験を開催し、再訪を促したことで参加が得られた。
- ・参加した学生が自分たちの趣味やサークルといった再来訪の可能性が生まれ持続的な交流に結びついた。
- ・集落も応えて大学コンソーシアムの開催誘致に名乗りを上げた。
- ・村民研究員の会について月1回の交流が定着し、来年度に向けた取組みにつながり、継続的な活動の基礎が村民の中にも感じられるようになった。

長野県木島平村



大学コンソーシアムでの集落調査



農家民泊での交流



村民研究員による渡来文化のルーツを探る高麗神社視察



第4回農村学講座での野沢菜漬け体験